第8回ICOM保存委員会大会報告

西浦忠輝・三浦定俊

1. はじめに

1987年9月5～11日，シドニー（オーストラリア）でICOM（International Council of Museums；国際博物館学会）[1] 保存委員会の第8回大会が開催された。今大会には我国から12名という多数が参加し，ポスターセッションを含めて13件の研究発表を行った。筆者らも前大会[2)3)]に引続き今大会に参加し研究発表を行なったので，その内容を簡単に報告する。

2. ICOM 保存委員会大会

ICOM保存委員会は理事会(Director Board)の下に，第1～第26までの26の分科会（Working Group）がある。各分科会には，20～40人程度の分科会員（member）がおり，代表者（coordinator）1名と1～数名の補佐役（assistant coordinator）がいる。大会では，総会を除いて，研究発表，討議は各分科会に分かれて行なわれる。4～5つの分科会が会場を分けて同時に開かれるから，全ての発表を聞くことは勿論不可能で，掲示板に貼られる研究発表プログラムを見ながら聞きたい発表を追って各会場を廻る必要があり，この点がIIC大会[1)~4)]とは大きく異なる点である。

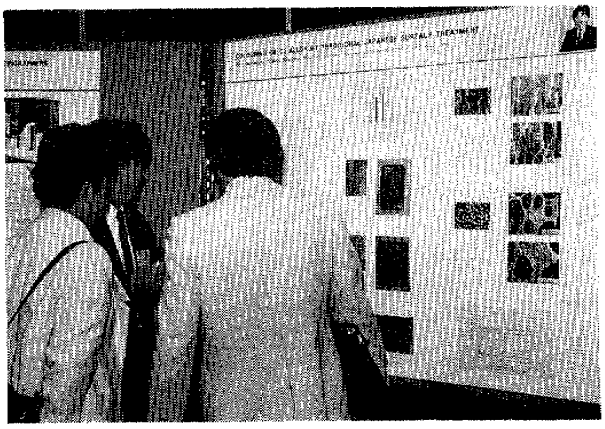
ICOM保存委員会大会への参加や研究発表を行なうための資格は特になく自由で，分科会のメンバーである必要もICOMの会員である必要もない（但し，理事の選挙権はICOM会員にのみ与えられる）。しかし，研究発表を行なうためには，発表すべき分科会の代表者による発表内容の事前チェックがあり，これにパスしなければ発表の機会は与えられない。今大会の参加者は，31ケ国から434名にのぼった(表―1)。参加者の半数近く200名以上が地元オーストラリアからであり，またニュージーランドから20名もの参加があったのは，地域事情から考えて当然であるが，その他ではアメリカ，イギリス，フランスからの参加が多かった。我国からの参加者は，名古屋大学名誉教授でIIC副会長の山崎一雄先生，前東京国立文化財研究所長でローマセンター（ICCROM）[6] 理事の伊藤延男先生を始めとして，国立民族学博物館の森田恒之，国立歴史民俗博物館の神庭信幸，東京芸術大学の稲葉政満，村上隆，絵画修復家の小谷野匡子，東京国立文化財研究所の見城敏子，新井英夫，門倉武夫の諸氏に筆者らを加えた総勢12名（登録者13名）で，8番目に多い数であり，海外での文化財の保存に関する国際会議への

表―1 第8回ICOM保存委員会大会参加（申込）者国別内訳

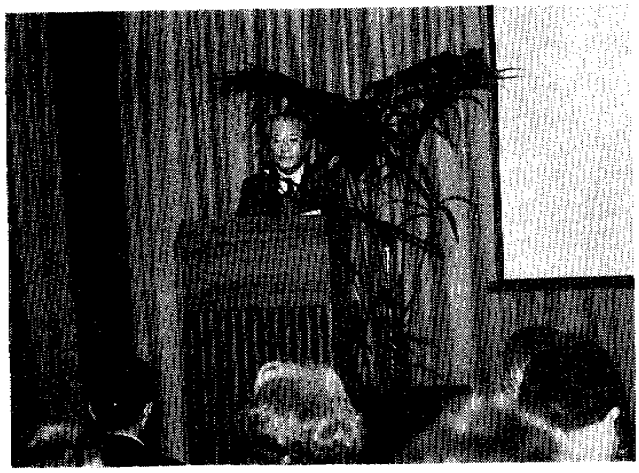
オーストラリア 204	アメリカ 50	イギリス 27	ニュージーランド 20
フランス 16	デンマーク 16	カナダ 14	日本 13*
スウェーデン 10	ノールウェイ 9	オランダ 9	イタリア 7
ベルギー 6	マレーシア 5	西ドイツ 5	スイス 4
スペイン，フィンランド，クウェート 各2			
ソ連，東独，中国，ブルガリア，フィリピン，タイ，ナイジェリア，ヨルダン，パプアニューギニア，象牙海岸，ベニン，ブルキナファン 各1			

* 実際の参加者は12名

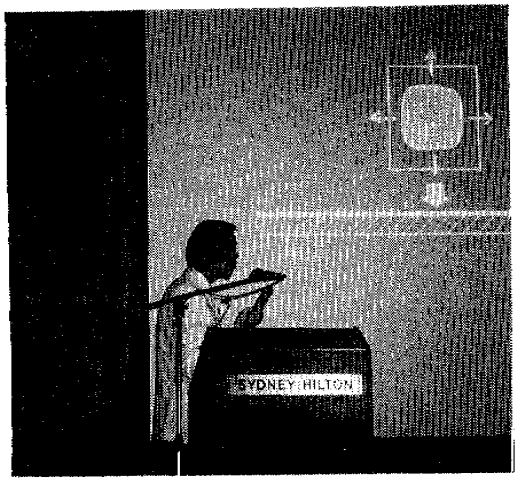
図—1　大会風景（開会式）



図—2　ポスターセッション風景



図—3　総会で講演する伊藤延男先生



図—4　分科会風景（発表者は西浦）

参加者数としては画期的な多さであった。

大会はホテルシドニーヒルトンで行なわれた。会議用語は英語，仏語であるが，分科会が行なわれた5つの部屋の内，英，仏の同時通訳が行なわれたのは二室だけであった。従って，他の三室では英，仏両語を理解しなければならないことになるが，オーストラリアで開かれたこともあって，実際上はほとんど英語が使われていたようである。

さて，以下，今大会のプログラムを邦訳し紹介する。各分科会の後の（　）内の数字は研究発表件数，〈　〉内はポスターセッション発表件数である。但し，ここで示した研究発表件数は，プレプリントに発表された件数であり，実際の口答発表件数はこの数よりかなり少ない。というのは，プレプリントだけ提出し大会には参加しない者がかなり多数いたからで，これは，大会に参加するしないにかかわらず，プレプリントを自由に発表できるという今のシステムによるものと思われる。*1~*10 は日本からの研究発表があったことを示し，その発表者と表題を末尾に示した。尚，英文と邦文でその意味が必ずしも一致しないものもあるが，これは邦文においては，発表内容をより明確に示すようにしたためである。

第8回 ICOM 保存委員会大会プログラム

1987年9月5日～11日

於　シドニー（オーストラリア）

9月5日（土）
10：00～14：00　理事会
14：00～16：00　理事，分科会責任者会議

9月6日（日）
14：00～20：00　参加者登録
14：00～16：00　分科会打合会議（分科会員のみ）
14：00～18：00　ポスターセッション据付け
18：00～19：00　インフォーマルレセプション

9月7日（月）
8：30～17：00　参加者登録
9：30～10：30　開会式
11：00～12：00　総　会
14：00～17：00　分科会研究発表
第2分科会：カンバスに描かれた絵の構造的修復（8）
第11分科会：修復の理論と歴史（12）
第17分科会：照明と環境制御（16）*1
第18分科会：皮革及び関連品の保存（2）
第22分科会：金属（8）〈1〉*2
18：30～20：30　オフィシャル歓迎レセプション

9月8日（火）
9：00～12：30　分科会研究発表
第1分科会：美術品の科学的調査（20）*3〈5〉*4
第9分科会：織物（20）〈1〉
第13分科会：自然史博物資料（1）
第21分科会：保存と修復についてのトレーニング（5）〈3〉
第23分科会：像（7）
14：00～17：00　見学（ロックアート地帯あるいは保存に関する研究所）*11
19：30～ 1：00　ディナーとダンス

9月9日（水）
8：00～10：00　新理事選挙
9：00～12：00　分科会研究発表
第4分科会：文書（6）
第7分科会：水浸有機考古遺物（6）〈1〉*5
第8分科会：関連資料（0）
第15分科会：壁画とモザイク（6）
第24分科会：ロックアート（3）
14：00～17：00　選挙結果報告
総会〔アジア太平洋地域における文化遺産の保存〕（4）*6
17：00～19：00　新理事による理事会
17：00～19：00　ポスターセッション

9月10日（木）
9：00～12：30　分科会研究発表
第6分科会：近代及び現代の美術品（6）〈2〉
第12分科会：運搬時における美術品の保護（7）
第16分科会：樹脂：その特性と評価（8）〈1〉*7

第25分科会：生物劣化の防止（9）*8
第26分科会：家具（2）
14：00〜17：00 見学（ロックアート地域あるいは保存に関する研究所）*11
9月11日（金）
9：00〜12：30 分科会研究発表
第3分科会：民族学資料（7）*9〈7〉
第10分科会：石（14）*10
第14分科会：記録図及び写真資料（16）〈2〉
第19分科会：脆い材料に描かれた絵画（3）
第20分科会：ガラス，陶器及び関係材料（8）〈1〉
14：30〜17：30 総会（分科会責任者報告）
閉会式
18：00 閉会レセプション

---

*1 ・Nobuyuki KAMBA ; A Study of Natural Materials as RH Buffers and Application to a Showcase.（調湿剤としての天然材料の利用と展示ケースへの応用）
・Sadatoshi MIURA ; Temperature and Humidity in a Large Glass Showcase for a Temple Hall.（中尊寺金色堂ガラス展示ケース内の温湿度）
・Toshiko KENJO ; Investigation of Sun Shining at a Japanese Historical Wooden Building by Use of Photo-Monitoring Strips.（光モニターを用いた日本の木造古建築における太陽光の調査）

*2 ・Ryu MURAKAMI ; Colouring Process for Cu Alloy by Traditional Japanese Surface Treatment.（日本の伝統的表面処理による銅合金の着色過程）

*3 ・Sadatoshi MIURA ; Emissiography and Reflectography of Ornamented Columns.（(鶴林寺太子堂）四天柱のエミシオグラフィーとリフレクトグラフィー）
・Masako KOYANO and Takeo KADOKURA ; A Preliminary Report on the Examination of Crystals Found on Oil Paintings in Japan Using Non-Destructive X-Ray Diffraction.（日本にある油彩画に発見された結晶の非破壊X線回折分析による調査の予報）

*4 ・Kazuo YAMASAKI ; Scientific Study on Opaque White-glazed Ware Found in Northwest Thailand.（タイ北西部で発見された不透明な白い上薬をかけた陶器の科学的研究）

*5 ・Minoru SUZUKI, Masamitsu INABA and Ryuichiro SUGISHITA ; Conservation of Water-logged Wood with Poly (ethylene glycol) monomethacrylate.（ポリエチレングリコールモノメタクリレートによる水浸木材の保存）

*6 ・Nobuo ITO ; Conservation of Movable Cultural Property in Japan - Why Conservator in Europian Sense does not Exist in Japan ?（日本における文化財保存の特殊性－いわゆるコンサーバターが何故居ないのか ?）

*7 ・Tadateru NISHIURA ; Raboratory Evaluation of the Mixture of Silane and Organic Resin as Consolidant of Granularly Decayed Stone.（粒状に劣化した石の強化材としてのシランと有機樹脂との混合物の評価実験）

*8 ・Hideo ARAI ; On the Foxing-Causing Fungi.（フォクシングの原因となる菌類について）

*9 ・T. MORITA, Y. TUJII and T. MATSUNAGA ; Application of a New Type of Pyrethroidal Compound on Ethonographic Textiles.（民族衣装保存のための新しい防虫剤の応用）

*10 ・Tadateru NISHIURA ; Laboratory Test on the Color Change of Stone by Impregnation with Silane.（シラン含浸による石の変色に関する実験的研究）

*11 ・次の4コースの内より選択
・シドニーの西郊外にあるアボリジニ旧居住地域，ロックアート
・応用美術及び科学博物館／シドニー海事博物館
・オーストラリア博物館／ニューサウスウェールズ美術館
・オーストラリア核科学及び原子力研究所

分科会への出席者数，研究発表件数は分科会間でかなりの差があり，今大会特に出席者の多かったのは，第1分科会（美術品の科学的調査），第3分科会（民族学資料），第17分科会（照明と環境制御），第24分科会（ロックアート）であった。第1分科会と第17分科会はいつの大会も盛況であるが，第3分科会と第24分科会が今回特に盛況であったのは，オーストラリアで開かれたという事情によるのであろう。従って，分科会によって研究発表一件あたりの持ち時間が大きく異なり，筆者らが主に出席した分科会で言えば第1分科会，第3分科会，第17分科会では発表件数が多くて時間の制限が厳しく短時間（10～15分）での発表を余儀なくされ，一方，第10分科会（石），第16分科会（樹脂）では逆になるべく長く（30分以上）かけるように依頼されたのである。

今大会の研究発表，講演および開閉会式等は全て録音され，そのカセットテープがすぐその場で販売された。プログラムの都合で聞けなかった研究発表や特に重要な講演，研究発表，更には自分自身の研究発表を後で繰り返し開けるのは，我々英語，仏語を母国語としない者にとっては，大変ありがたいことである。

3. おわりに

今大会に我国から12名が参加し，13件の研究発表を行なったというのは，海外で開かれた文化財に関する国際学会では過去になかったことである（表―2）。研究内容，語学力等問題なきにしもあらずだが，我国におけるこの分野の国際化が急速に進展しつつあることの現れとして，一応，評価されるべきであろう。

表―2　IIC 大会，ICOM 保存委員会大会への日本からの参加者および発表件数（1980～）

年	名　称	開　催　地	参加者（発表件数）
1980年	第8回　IIC 大会	ウィーン（オーストリア）	2（1）
1981年	第6回　ICOM 保存委員会大会	オタワ（カナダ）	2（2）
1982年	第9回　IIC 大会	ワシントン（アメリカ）	1（0）
1984年	第10回　IIC 大会	パリ（フランス）	5（3）
〃	第7回　ICOM 保存委員会大会	コペンハーゲン（デンマーク）	5（3）
1986年	第11回　IIC 大会	ボローニャ（イタリア）	3（1）
1987年	第8回　ICOM 保存委員会大会	シドニー（オーストラリア）	12（13）

1988年9月に京都で第12回 IIC 大会が開催される。今 ICOM 保存委員会大会は，同じ文化財保存に関する国際学会として，丁度その1年前に開かれたわけで，IIC 京都大会を準備する上で種々参考になることがあり，その意味でも今大会への参加は筆者らにとって有意義なことであった。

参考文献

1）関野克：「文化財と建築史」鹿島出版会，52―63（1969）
2）三浦定俊："IIC 大会と ICOM 保存委員会大会出席報告"，日本文化財科学会会報 No. 6，13―15（1985）
3）三浦定俊，西浦忠輝："IIC 大会と ICOM 保存委員会大会に参加して"，保存科学第24号，105―107（1985）
4）西浦忠輝："第11回 IIC 大会に参加して"，保存科学第26号，67―73（1987）
5）増田勝彦："ローマセンターにおける壁画修復コースに参加して"，保存科学第16号，77―82（1977）

The 8 th Trienial Meeting of ICOM Committee for Conservation

Tadateru NISHIURA and Sadatoshi MIURA

The 8 th Trienial Meeting of ICOM Committee of Conservation was held in Sydney, Australia on 5—11 th of September, 1987. The authors attended the meeting and presented their papers. About 400 people from 31 countries Participated in the meeting. From Japan, 12 People participated in the meeting, and 10 papers and 3 posters were presented. The program of the meeting is reported here.